

近畿地区内航船社官学労使懇談会
情報を共通認識し船員後継者の確保につなげる

ニューオーサカホテルにて 12 月 23 日、近畿地区内航船社官学労使懇談会を開催した。会社側 19 社 2 団体 31 人、学校関係者 6 校 7 人、運輸局関係者 4 人、組合は本部から平岡英彦国内局長、関西地方支部管内から浦隆幸関西地方支部長をはじめとする執行部 13 人の総勢 55 人が出席した。

始めに浦隆幸関西地方支部長から「御多忙の中、懇談会に参加いただき心より感謝申し上げます。船員政策をテーマに官・学・労・使がそれぞれの視点から忌憚のない意見を出し、問題解決の一步とするため、活発な意見交換をお願いしたい」とあいさつし、続いて組合を代表し平岡英彦国内局長があいさつした。

次に船社側代表として第一中央内航(株)の竹内万文代表取締役専務と、官庁側を代表し運輸局の岡村知則神戸運輸監理部海事振興部長それぞれからあいさつをいただき懇談に入った。

懇談会では、船員養成教育機関から教育現場における諸課題や進路状況の説明があり、近畿運輸局からは若年内航船員確保の取り組みについて報告がなされた。

その中で参加した学校側から▽深刻な教員・船員の不足▽少子化での生徒数の減少に伴う受験倍率の低下や定員割れ▽船員希望の女子学生が増加傾向にある▽燃油価格高騰による予算の圧迫▽練習船「若潮丸」の代替船が令和 8 年 3 月に建造予定である▽希望生徒には船社へのインターンシップや会社見学を実施していることなどの説明が行なわれた。

その後の意見交換を通じ▽普通科高校から水産高校専攻科に進学の場合の問題▽学生が重要視する仕事の要素▽船員の確保および拡大▽定着率向上のための各社の施策▽各地で実施している海技者セミナーの周知▽学生向け会社説明の機会提供▽障害を持つ生徒の採用状況▽パワハラに対する取り組み▽女性船員採用状況ならびに対策▽海事思想普及のための職業体験型テーマパークの利用についてなどの質問・意見が出された。

最後に、小林泰之大阪支部長が「皆さまの活発な発言をいただき、諸問題について共通認識が図れ、有意義な懇談会となった」とあいさつし、懇談会を閉会した。

「海員だより」